

第6回苫小牧市中小企業振興審議会要旨

1. 日時 平成27年1月30日(金) 15:00～17:00

2. 場所 苫小牧市職員会館304号室

3. 出席

(1) 苫小牧市中小企業振興審議会委員(12名)

川島会長、市古副会長、岩佐委員、鹿毛委員、小玉委員、坂本委員、佐藤委員、谷本委員、伴辺委員、林委員、廣澤委員、矢野委員

(2) 事務局(市)

片原産業経済部次長

商業観光課：池田課長、銅主査、安藤主事

工業労政課：桜田課長、大津主事、佐藤主事

4. 概要

(1) 開会

(2) 議事

① 第1期苫小牧市中小企業振興審議会報告書(案)について

▽会長

- ・前回送付の資料から一部修正があったことを報告。
- ・今回の審議会で委員の意見を取り入れ加筆修正を行っていく。
- ・今後のスケジュールは2月の第7回審議会で内容をつめ、第8回審議会で最終確認をしていく。1ページの内容を説明。

1. はじめに(P1)

▽委員

- ・提案事項として、「中小企業の振興は、働く人の」の段落に「働く人の約84%が中小企業」と盛り込んでほしい。その他3点はリニューアル版で訂正されていたので問題ない。

▽会長：内容の説明。

「2. 苫小牧市中小企業振興条例策定までの経過」(P2)

「3. 苫小牧市中小企業振興審議会等について」(P2)

「4. 苫小牧市中小企業振興審議会委員アンケート」(P3～5)

(1) 中小企業と取り巻く状況の認識 (P 3)

▽委員

- ・ 2 番目について。自動車関連に活気が戻り、東部は大型店の出店もあり活気がある。市内は西部、中部、東部地区に分かれるので、西部まで波及効果があるのか。「西部については厳しい」と、ある程度鮮明にしてはどうか。

▽委員

- ・ 3 番目について。好転してきた現在の情勢を入れたらどうか。

▽会長

- ・ 昨年 10 月時点のアンケートの骨子なので、検討する。

▽会長：内容の説明。

- 「(2) 中小企業の課題と今後の取り組むべき課題」(P 4)
- 「(3) 審議会で話し合いたいテーマ」(P 5)
- 「5. 審議会等での議論」(P 5)
- 「(1) 審議会の進め方」(P 5)
- 「(2) 市内中小企業の現状」(P 5～P 6)

▽委員

- ・ 「(2) 市内中小企業の現状」 ◆主な意見<その他>
「市外の業者が市内に進出してきている」は何が問題か。

▽会長

- ・ 東部地区の大型店出店で、市内の業者に影響があるのではということ。

▽会長：内容の説明。

- 「(3) 創業促進施策の考え方」
- 「(4) 人材育成施策の考え方」
- 「(5) 事業承継施策の考え方」

(3) 創業促進施策の考え方

▽委員

- ・ 「創業予備軍への支援」というくくりがよいのではないかと。資金面になると思うが。<情報発信>の2つ目は創業予備軍のくくりになるのでは。

▽委員

- ・ 情報発信について。情報は共有と発信に分かれるが、ここでは情報共有するためのコミュニティーの形成という話になると思う。「情報発信」というより「情報共有」と明確にし、その意見に厚みを持たせていけた方がよい。

▽委員

- ・創業予備軍について。予備軍がいるという前提だがどこにいるのか。

▽会長

- ・「将来会社を起こしたい人」と「その前段階の人」の二つの部分に分かれるため、創業予備軍という言葉に違和感を覚えるかもしれない。

▽委員

- ・「創業予備軍を掘り起こす」ということも枠に入れたらよいと思う。女性や退職者の創業が多いので、そういう方が参加しやすいセミナーの開催が必要だと感じる。

▽会長

- ・「女性や退職者へ何らかの対策ができないか」との文言がよいのではと。

▽委員

- ・文言のことではないが、創業について。独立したい人には2パターンあり、雇われるより独立した方が高収入になると考える人、自分の夢の実現のためと考える人がいる。我々はどのように支援をしていくか。創業ができる環境づくりが必要。

▽会長

- ・「創業のための環境づくり」ということを謳った方がよいのではないかと。

▽委員

- ・「創業予備軍」という表現で適切な言葉はないか。

▽委員

- ・よく使うのは「創業希望者」。

▽委員

- ・記載の順序について。＜資金＞そして＜創業者育成＞という流れは読みづらいかもしれない。まず始めに、創業予備軍の数値や創業の割合などの情報があればどうか。例えば、情報共有や発信、相談件数、彼らの悩みは資金面や経営スキルなど。この（3）に限らず、そのような順番で整理してはどうか。

(4) 人材育成施策の考え方

▽委員

- ・北海道中小企業団体中央会の「接客マナーやクレーム対応の講習」を「ニーズに合わせた講習をやっている」としてほしい。

▽副会長

- ・高校生に学習の場を与えることで、まちおこしを積極的にできる環境づくりにつながるのではないか。

▽会長

- ・「帯広の事例など将来的には苫小牧市も視野に入れて、若者や人材を育成することが好ましい」という記述が入った方がよい。
- ・帯広では教員が企業のインターンシップに行き、生の声を伝えることで、生徒の職業に対する意識が深まっている。
- ・大学でも教員が企業で研修し、現場で必要なスキル等を学生に伝えるということが徐々になされている。

▽委員

- ・「苫小牧で欲しいもの」を発言できる場を作ってはどうか。また、小学生などの自由な発想ができる年代から自由な意見を集めること、中学生に対しては将来働く姿を考える機会を作るなどがあればよいのでは。

▽委員

- ・中小企業は人材育成の方法がわからないのではないか。方法を一緒に検討するような機会や支援者が必要なのではないか。

▽副会長

- ・人材育成はニーズがあるが難しい。大企業も人材育成で行き詰っているのではないか。

▽委員

- ・人手が不足していて、時間もないというのは切実。

▽委員

- ・残業代をつけて学ばせるほどの成果も出ないと思っている。

▽委員

- ・経営者は総論賛成各論反対。人材育成は結果が出づらい。
- ・人材育成で成功している企業の情報を発信すれば裾野が広がっていくのではないか。

▽会長

- ・企業の成功事例、実践的な活用方法を発信できるものを作っていくという。

▽委員

- ・人材育成に関して、今は派遣や非正規雇用などの労働者に対し、技術の教育はしない。
- ・また経営者に関しても、会社を牽引する個性的な社長が少なくなり、中小企業は大手企業に圧倒されている。中小企業は人材をヘッドハンティングする方が楽なので、その傾向にある。個人企業は社長のカラーを出してしか人材育成をできないと思う。
- ・大手はマニュアル通りで、社員の発想や能力を押さえつけている。

(5) 事業承継施策の考え方

▽委員

- ・ <資金> 「雇用に対する補助制度の見直し」は論点が違っているように感じる。
- ・ 事業承継の資金面は、法人事業所を事業承継するとき、新たに承継する方でお金が必要になるときに対応するメニューがある。

▽委員

- ・ 事業承継のとき、株の継承をするときにお金の問題が出てくる。
- ・ ここではお金の問題でなく、人材不足の中で後継者をどうするかという人的な問題である。

▽委員

- ・ 親族ではなくても、従業員が継ぐときにこのような問題が出てくる。

▽委員

- ・ タイトルを「事業継続施策の考え方」とした方がよいと思う。承継というと、相続対策の方になってしまう。

▽委員

- ・ 事業継承の補助金というと発想が違うと思う。

▽会長

- ・ 事業継承を中心にする「雇用に関する補助金」は食い違ってくる。くくりを分けて記述した方がよい。

▽委員

- ・ 事業承継の考え方というタイトルであればくくりではなく、事業承継をする側とされる側、継承するときのハードやソフトなどの分類がよいのではないか。大前提として、なぜ事業承継が必要なのかを置かなければ、話が進まないと思う。

▽会長

- ・ いかにもスムーズに事業承継できるか。また廃業にならないよう地域がどのように支えるか。

▽副会長

- ・ 「事業継続」とした方がよいと思う。事業を継続する理由は、雇用の創出などがある。継続する意義を出すために、どのようにしたらよいかの次の課題になると思う。

▽委員

- ・ 事実、中小企業実態調査では全体の17.2%の事業所が「後継者がいない」という結果になっている。枠の「後継者の不在は、地域から会社が消滅し、雇用の減少につながる」はまさにその通り。「事業継続」の方がふさわしい。

▽委員

- ・法人格は従業員の雇用、地域に対するサービスの提供を担っている。社長には法人格を守るという感覚を持ってほしい。個人事業は、従業員等に店を譲ることで、地域企業が継続することになる。

▽会長：内容の説明

「6. 帯広市産業振興会議の視察概要」(P 9)

「7. 今後の中小企業の振興にあたって」(P 10)

7. 今後の中小企業の振興にあたって(P 10)

▽会長

- ・第2期のテーマで「販路拡大・需要開拓」を盛り込むことについて提案。

▽委員

- ・ヒアリング調査結果を見ると、「販路拡大・需要開拓」はそこまで重要ではないのかもしれない。

▽副会長

- ・売上を増やす方法の検討も必要。新しいビジネスを起こすために行政を通してどういったバックアップができるかというテーマも有意義かもしれない。

▽委員

- ・「中小企業の振興を具体的かつ機動力のある方法で検討するため、効率的で効果的な組織づくり」の部分は具体的にする必要があるのではないか。第2期以降の、検討内容、組織立てなどをある程度、記載してもよいのではないか。

▽会長

- ・帯広の事例で取り入れられる部分は取り入れていくという形の記述をしていく。

▽委員

- ・意欲ある創業者を応援する体制作りが必要ではないか。

▽委員

- ・創業の補助金は有効だと思う。
- ・マスコミなどで商品等をPRすれば効果的。
- ・3番目の「効率的で効果的な組織づくり」では、第2期以降への具体的な検討内容、組織作りを明記すべき。
- ・4番目の「審議会及び勉強会において」は、第1期のようなものだと委員内部の勉強会だけになってしまう。したがって、1番目に記載しているテーマで、帯広のような部会を作って第2期に渡さないとまた同じ話になってしまう。具体的な提案をした方がよいと思う。

▽委員

- ・当初から部会を作って審議した方が、集中的に議論できるという話で、分科会で話し合ったことを全体会議でまとめるということだった。その意味である程度テーマを絞って、第2期に渡すことが重要だと考える。
- ・情報の一元化とは何か。

▽委員

- ・「情報の一元化」は施策の情報が分散してわかりづらいので、まとめて見やすくしようということ。

▽委員

- ・やはり「販路拡大」の部会を4つ目のテーマとして提案したい。
- ・3番目の「効率的で効果的な組織作り」は部会以上ということによいか。

▽会長

- ・委員の意見を聞き検討していく。

▽委員

- ・P4の「西部地区の企業振興をどのように進め、中小市街地をどのように再生するか」は重要だと感じる。中小企業者と消費者との懇談会等の取り組みで、市民に対し中小企業振興についての周知が必要ではないか。

▽会長

- ・その他意見があれば、次回審議会までに提案してほしい。

▽委員

- ・創業支援施策について。「創業予備軍」は、具体的な創業が目の前の段階にある「創業希望者」と、創業に関心を持っている「創業関心者」で分けて整理するとよいのではないか。そしてプロセスごとに、どういう支援をするかを整理すれば、すっきりしてくるのではないかと思う。
- ・情報発信については「情報発信と共有」という言葉に変えた方が全体のイメージになると思う。

② 苫小牧市中小企業実態調査報告書について

- ▼事務局：報告書の回答率、訂正箇所、ヒアリング調査内容の説明。次回の審議会の詳細を説明する。

(3) 閉会